

# 上杉謙信の五条衣

## ■遺品の五条衣

上杉謙信(一五三〇―一七八)は、神仏に対する熱烈な信仰に生きた戦国武将の一人である。幼時には生家長尾家の菩提寺である林泉寺(上越市中門前)六世の天室光育に預けられ、禅を修めた。長ずるに及んで七世益翁宗謙の会下に参禅し禅の極意を悟った。さらに嵯峨・大覚寺の義俊や高野山無量光院の清胤より深く真言密教の奥義も究めている。

謙信の遺品が収蔵されている上



図1 茶紺綿子袈裟

杉神社(米沢市丸の内)の稽照殿(けいしょうでん)には、謙信が掛けていた五条衣を所蔵している。それは掛絡と横に搭ける守持衣の二種があり、これによつて当時の五条衣をながめてみたい。

掛絡は「上杉家伝来衣裳」(昭和四十四年四月 講談社)に「茶紺綿子袈裟」(図1)と紹介されており、田相の大きさは縦三十一センチ、横五十六センチで、裏布はない。田相は茶綿子で、縦と横の葉は紺綿子である。ただし、田相は朽損しているため存在しない部分もある。竿は一二四センチで、黒地の裏布がある。外側の幅は十二センチ、内側の左が六センチ、右が五・五センチで外側より細い。なお、左側には白い環がついている。

マネキは縦が二十二・五センチ、横は十三センチで、上部が竿に縫いつけられており、竿と重なった部分の中央の一ヶ所も縫いつけら

れている。

横に搭ける守持衣は六種がある。

① 崩黄大牡丹文金襴袈裟は縦二十一・五センチ、横五十四センチで、紐の長さは二三四センチである。田相とそれ以外も崩黄綿子地に大牡丹文様を金襴で描き出しており、裏は黄地平絹が用いられている。

② 濃茶平絹崩黄銀入黄緞袈裟(図2)は縦十六センチ、横五十二センチである。田相は上質の濃茶平絹で、葉、縁、紐は崩黄銀入黄緞が用いられており、裏は金茶色平絹である。

③ 薄黄雲文黄牡丹文緞子袈裟は縦十六・五センチ、横五十三センチである。田相は薄黄雲文緞子で、葉、縁、紐は黄牡丹文緞子である。

④ 薄茶濃崩黄金襴袈裟は縦十六・五センチ、横五十三センチである。田相は薄茶金襴で、葉、縁は濃崩黄金襴が用いられている。黄色平絹が紐の乳として二ヶ所に

ついており、もとは裏布がなかったが、田相がひどく傷んでいたところから、昭和三十九年の修理の時に裏が帖られたようである。

⑤ 黒綿子崩黄金入黄緞袈裟(図3)は縦十七・五センチ、横四十五センチである。田相は黒綿子で葉、縁、紐は崩黄金入黄緞が用いられている。裏は赤銀入黄緞である。

⑥ 茶花文緞子袈裟は縦十七センチ、横は約五十七センチである。これは筧から出された時、一握りの朽損した裂の塊であったが、それを水伸しで整理してみると袈裟であった。田相もそれ以外も緞子が用いられているが、詳しい形態は明らかにならない。

六種の守持衣は現在、奈良の寺院で使用されている南都袈裟(加行袈裟ともいふ)と同じく幅の狭いものである。南都袈裟は偏袒右肩に搭けているが、謙信の守持衣は偏袒右肩に搭けるには短い。その



図3 黒綿子崩黄金入黄緞袈裟

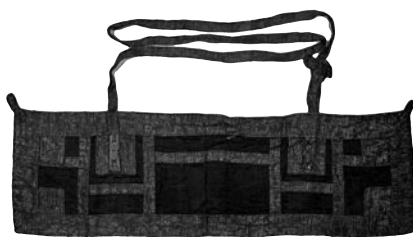


図2 濃茶平絹崩黄銀入黄緞袈裟